



↑第54回農林水産祭むらづくり部門で「天皇杯」を受賞した「富の川越いも」。伝統農法による長年の活動が認められた証です。

さつまいも
だけじゃない!

ほうれん草も食べてみて



先祖代々受け継がれてきた農家を、いつかはやらなければいけないという想いがありました。上富のさつまいもが有名な三芳町ですが、他の地区でも美味しい野菜を作っている農家はたくさんいますし、地元愛の強い若手農家も多くいます。三芳町は県内有数のほうれん草の生産地です。甘みがあってとても美味しいので、お店などで見かけたらぜひ手に取って、食べてみてください。



三芳町農業経営研究会
鈴木 厚史 さん

三芳町へ移住。「のどかな場所」と思っていたのも束の間、毎日慌ただしい生活を送っていたと言います。ただ、まだその頃は義理の両親と忠男さんが農業、光子さんが子育てに家事と分業していたため、光子さんが畑に出ることは無かったそう。

しかし、8年程前に義母が他界。光子さんは「義母がやってきたことをつないでいきたい」という気持ちが膨らみ、畑仕事に加わります。「最初は何もわからなくて、見よう見まねでやっていましたね」と当時を懐かしそうに振り返ります。

三芳町の多くの農家がそうで



↑さつまいもの収穫をする忠男さん。掘り上げたいもを少し寝かせることで甘みがグンと増します。

あるように、早川家でも先代から続く農業の知恵と想いを夫婦でしっかりと受け継いでいます。

農家の活気を味わいに

「東京にこれだけ近く、災害

も少ない。落ち葉堆肥農法がずっと続いて、後継者も育っていく。三芳町は住むにも農業をするにもとても良い場所です」と忠男さんは生まれ育った三芳の豊かさを噛み締めます。

新型コロナの影響で世界一のいも掘りまつりが中止となり、いも街道への来訪者の減少が懸念される今年度。しかし、忠男さんは前を向き、こう言います。

「毎年ノボリ旗が立ち並ぶといも街道が活気づきます。この時期ならではの雰囲気を感じたいに来てください。今年も美味しい『富の川越いも』ができていますから。」



【写真】
収穫したさつまいもを持ち、笑顔で並ぶ「いも早川」の早川忠男さん・光子さん。今年も夫婦二人三脚で美味しいさつまいもを届けます。



美味しいものをつくり続けるために――。

受け継ぎ、支え合う農家の想い。

伝統農法や立地の良さなど、魅力あふれる三芳町の農業――。
二人三脚で農家を営む早川忠男さん・光子さん夫妻に三芳町の農業について話を伺いました。

味よ 味良しの農家は、三芳の誇り。

未来を担う若手農家の声

「付加価値のある野菜と果物」

2年前に三芳初のいちご栽培を始め、多くの人に購入していただきました。売上げが上がると思われ、農家は進化していきます。お客さんが農家を育ててくれます。三芳町は立地も良く農業環境は恵まれています。現状に満足せず、挑戦を続けていきたいと思っています。ぜひ三芳の野菜や果物を味わいにきてください。値段が高くても、それだけの付加価値が見つかるはず。



三芳町4Hクラブ会長
鈴木 啓介 さん



いちごは12月中旬～

↑「味を落とさずに生産量を増やせるよう努力しています」と話す啓介さんとお母さん。



想いを受け継いでいく

今年度、会長を務めるのは「いも早川」の四代目、早川忠男さん。24歳で就農し、以来38年間、農業一筋で美味しいいもよし野菜をつくってきました。

妻の光子さんは、結婚を機に

この29軒から構成され、江戸時代から続く伝統農法を守り、お客様に美味しいさつまいもを届けてきたのが「三芳町川越いも振興会」です。

秋

になると、「富の川越いも（*）」と書かれたノボリ旗が二斉にはためく上富のケヤキ並木。全長約1.5km、「いも街道」と呼ばれるこの通りの両脇には、29軒のさつまいも農家が存在します。

② 三芳町川越いも振興会

「富の川越いも」を生産する29軒のさつまいも農家の団体。この農家が連なる通りを「いも街道」と呼びます。

いも振興会 HP



いも街道 MAP



三芳町HP
観光ページ

*「富の川越いも」…三芳町川越いも振興会が生産するさつまいもの総称。

秋にはこのノボリが
いも街道に並びます。

